

[要旨]

欧米における最近の「エリート」研究

高瀬 久直

重要な権威的ヒエラルキーのトップの位置を占めるエリートの中でも、経済的な富の生産と分配に関する意思決定を行い、経済社会に大きな影響を与える経済エリートは重要な位置を占める。経済エリートに関する理解なしに現代の経済社会の全体像を理解することはできない。

この経済エリートに関する欧米における注目すべき研究として、第一に、インナー・サークルに関する研究がある。インナー・サークルとは、先進資本主義国における経済エリートの全体的利益を担う少数グループである。経済エリートは、このインナー・サークルを形成することで、他の社会集団や国家の政策に対して自らの集団の全体的利益を効果的に防衛したり、押し付けたりすることが可能となる。

第二に、多国籍企業の経済エリートに関する研究がある。欧州における有力な経営者団体である欧州産業経営者円卓会議に関する研究は、グローバルな活動を展開する欧州の多国籍企業の台頭が、欧州レベルで新自由主義的政策の台頭をもたらしたことを明らかにしている。

こうした欧米における研究成果に学ぶことは、これまで国民国家の内部に視野を留めてきた従来の日本のエリート研究の制約を超えて、多国籍企業化が進む中での現代日本における経済エリートの全体的な利益の担い手の集団に関する研究を前進させるために有益である。